

次世代型リチウムイオン電池「全樹脂電池」の事業開発を行う APB へ追加出資

三洋化成工業株式会社

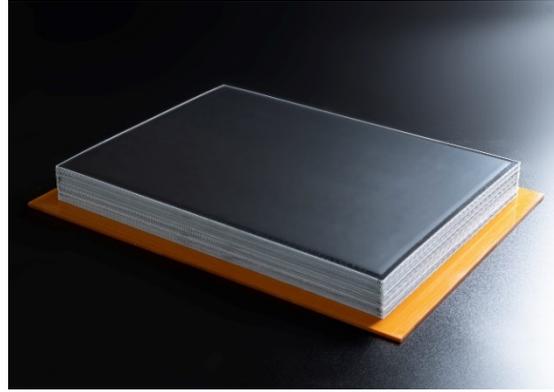
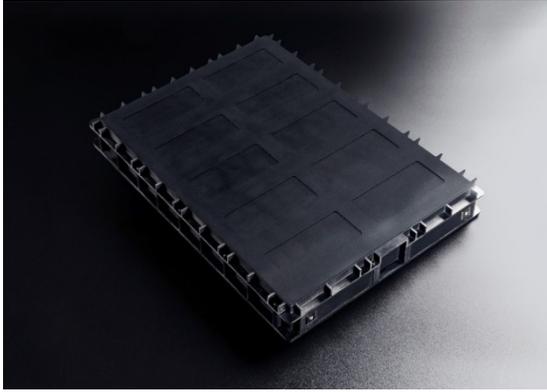
(証券コード 4471)

三洋化成工業株式会社（本社：京都市東山区、代表取締役社長：安藤孝夫、以下 三洋化成）は、関係会社で、次世代型リチウムイオン電池「全樹脂電池」の開発を行う APB 株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役：堀江英明、以下 APB）へ追加出資することを決定しましたのでお知らせします。

APB は、全樹脂電池（All Polymer Battery）の製造及び販売を行うスタートアップ企業です。全樹脂電池は、活物質に樹脂被覆を行い、樹脂集電体に塗布をすることで電極を形成しています。このような独自の製造プロセスにより、従来のリチウムイオン電池よりも工程を短縮することで、製造コスト・リードタイムの削減を実現するとともに、これまでにない高い異常時信頼性とエネルギー密度を実現しています。部品点数が少なく済むバイポーラ積層型で、樹脂で構成しているため、電極の厚膜化が容易に行え、セルの大型化が可能で形状自由度が高いことも特長です。上記の特長を生かして、APB では全樹脂電池を定置用蓄電池や各種モビリティ用途など、様々な用途への展開を図っています。

今回、APB は三洋化成以外に、新東工業株式会社および三菱 UFJ キャピタル 7 号投資事業有限責任組合を引受先とする第三者割当増資を実施します。今回の資金調達と、前回（2020年6月30日）および前々回（2020年3月4日）に発表した第三者割当増資を合わせて、累計で 100 億円の資金調達を実現します。これまでの資金調達と同様に、現在福井県越前市にて立ち上げを行っている全樹脂電池の第一工場（APB 福井センター武生工場）の設立・運営に充当することを主たる目的としており、全樹脂電池の量産技術の確立、製造販売に向けての投資に充当されます。

三洋化成は、現 APB の代表者である堀江氏とともに全樹脂電池技術を共同開発し、同氏が 2018 年 10 月に APB を設立後、2019 年 2 月には資本業務提携を行い、事業支援を行ってきました。今回の追加出資により、事業開発を加速させるとともに、引き続き技術資源、人材資源、物的資源などのさまざまな経営資源を投入して APB の事業基盤の強化、発展を全面的に支援し、持続可能な社会の創造に貢献していきます。



全樹脂電池セル サンプル (©APB Corporation)

新開発の全樹脂電池モジュール

(寸法：約 550×400×50mm)

内部構造 (左写真モジュール内部)

40 枚の電池セルをバイポーラ積層し直列に接続

【APB 株式会社 会社概要】

設立 : 2018 年 10 月
代表者 : 堀江 英明
事業内容 : リチウムイオン電池の研究開発・製造・販売等
所在地 : 東京都千代田区神田須田町 1-3-9 PMO 神田万世橋 3 階

<本件に関するお問い合わせ先>

三洋化成工業株式会社 メディア・IR 部

電話 075-541-4312